



消費者 体験レポート

秋川牧園を訪ねて

門脇 恵美さん (東京)

「秋川牧園」ネット広告や自然食品店で見かける商品、目や耳に入ってきているワードでした。無農薬、無化学肥料での野菜栽培、鶏への抗生物質無投与、餌のホストハーベスト無使用、そして、何と言っても3.11以降気になっている放射能検査を行っている事、私が気にしている事を網羅されている。「見学ツアー行かない？」と声をかけられ「これは行くしかない！！」と山口へ旅立ちました。

草生い茂る中、黄色い花を咲かせるかぼちゃ畑、その向こうに大きなハウス。ハウスの中に鈴なりになる色々な種類のミニトマト！「トマト食べてみて下さい〜」と言われ、口一杯にトマトを頬張る子ども達。

有機肥料だけで育った、手間暇かけたトマトは甘くてほんのり酸っぱくてトマトの味が濃い！それに加え、獲れたての味は格別！！

古民家へ移動し、秋川牧園の食材を使い、自分たちでお昼ご飯を作る事になりました。湧き水汲み、カマドの火起こしから始まり、男の子たちは火に夢中！持参した火打石で火起こしに成功し、その火で炊くご飯を満足気に見守っていました。

母達は献立を考え、湧き水汲み、カマドの火起こしなど加わると一気にタイムスリップした様な感覚。食材そのものを味わいたく、シンプルなお料理を作りました。

た。お野菜の味もさる事ながら、鶏肉の美味しい事！！臭みがなく、味わい深く、程よい歯ごたえ、ストレスを感じずに過ごした鶏なんだなあ実感しました。

食後には、鶏肉を使った加工工場の見学。正直、加工品には良いイメージがなく、添加物も色々入っているのだろう、との先入観で行った加工工場。入ってビックリしました。まるで大きな台所！普通の工場のイメージは、作るものによって生産ラインが決まっています、人間は機械の管理と少し手を加えるくらいだと思っていましたが、秋川牧園の加工工場は、大きな作業台があり、そこで何を作っているかの看板を出し、ボールに調味料を入れ準備、沢山の人が手作業で調理してはおりませんか！

ほぼ手作りと言っても過言ではありません。この加工品なら食べられる！少しお弁当の手抜きが出来そうだな…なんて思う母でした。実際に訪れ、安全な食を提供してくれていることの大変さとありがたさを感じました。



AWFC生産者一覧

エルパソ牧場【北海道】
北十勝ファーム【北海道】
なかほら牧場【岩手】
株式会社 いなほ【宮城】
放牧豚氷見B・B・ファーム【富山】
会田共同養鶏組合【長野】

黒富士農場【山梨】
ぶうふううう農園【山梨】
白州郷牧場【山梨】
磯沼ミルクファーム【東京】
ホープフルピッグ【東京】
吉実園【東京】

中津ミート/海老名畜産【神奈川】
秋川牧園【山口】
氏本農園【山口】
ニワトリノニワ【高知】
斉藤牧場【高知】
上田尻牧野組合【熊本】

アニマルウェルフェアとは

家畜は物ではない
人間と同じように、
ストレスを感じるいのちです。

他の生物のいのちを食べる宿命をもつヒトは、動物が最終的な死を迎えるまでの短い一生を育てるだけであり、かれらが求める生活水準を満たす努力をするだけです。

動物が求める生活レベルを高めることで、ヒトも動物から癒しを得ることが出来ます。

家畜福祉ファームアニマルウェルフェアとは、

人も家畜も満たされて生きることです。

AWFC Japan アニマルウェルフェアフードコミュニティジャパンは、家畜の一頭、一匹、一羽をストレスから解放し健康に育てる牧場とその価値を認める食品企業や消費者が共に連携し協働する社会をめざしています。

活動予定

9月中旬 高知県会員牧場見学
9月下旬 磯沼ミルクファーム見学
10月初旬 京都府会員牧場見学

個人会員募集中！

個人会員の特典

1. 年会費のほぼ半額、お好きなアニマルウェルフェア食品を年一回宅配してもらえます。
2. いつでも別途に、会員牧場へ直接購入を申し込んでウェルフェア食品を食べることが出来ます。
3. 会員牧場の動物たちとふれあい、飼育生産者へ訪問して交流することが出来ます。

2018
6月

練馬区消費展

第48期練馬区消費生活展（練馬区石神井文化センター）に参加。AWFCの趣旨、活動内容を来場者（速報値：2,785名）に直接伝える有意義な機会となりました。



2018
5月

アニマルウェルフェア合宿研修会

全国から会員合計19名が集まり、生産者や大学研究者、流通関係者、消費者などそれぞれ立場から近況を報告し、AWにまつわる課題や目標を深夜まで意見交換しました。



2017
11月

なかほら牧場見学会

会員の中洞正さんが牧場長を務める岩手県中洞牧場の視察会を開催し、会員11名が参加。広大な自然の中で営まれる山地酪農の現場を知ることができました。



アニマルウェルフェアフードコミュニティ ジャパン事務局

〒336-0922 埼玉県さいたま市緑区大牧1481-6 池嶋 丈児

080-5428-3077

http://awfc.jp/

office@awfc.jp

生産者紹介



農業生産法人 黒富士農場

黒富士農場は、山梨県の甲斐市にある採卵鶏の農場です。

特徴としては有機JASを取得している事。畜産において有機JAS認証の取得は非常に難しく、食べるもの、飲むもの、暮らす場所、全てにおいて厳しい基準が設けられています。

有機JAS基準の中には飼料の安全性だけでなく、環境保存や動物福祉に関する規約も多く含まれており、そんな基準を全てクリアして生産を行っているのが『リアルオーガニック卵』です。ただ、動物福祉の部分だけに焦点を当てると有機JAS基準ではまだまだ足りない部分もありますので、今後黒富士農場としましては、より高いレベルの動物福祉に配慮した飼育を目指し実践していきたいと思っています。

〒400-1121 山梨県甲斐市上芦沢1316
1950年採卵農業開始～
1984年社名変更「黒富士農場」へ
事業内容
卵の生産・販売
加工品の製造・販売
山梨県内の直売店『たまご村』の運営

AWFCとしての活動目的は、一般消費者の方々に対し、動物福祉の実践が品質向上にも繋がるという事を理解して頂き、より多くの方に選択してもらえるよう勧めていくことです。

国内消費の中で、少しでもケージから平飼い卵へと消費が変わっていく事の手伝いが出来れば幸いです。

黒富士農場 専務 向山一輝



生産者紹介



株式会社 秋川牧園

秋川牧園は、私の父が1972年、健康安全な卵づくりを開始したのがその始まりです。その後、同じ鶏ということで、若鶏の無投薬飼育の挑戦を始めます。当時は不可能とされていたことでしたが、何十もの改善を重ねる中で、安定的な生産に成功します。

秋川牧園の基本的な考え方は、まずは動物自身の健康を大切に、ということ。その環境を整えることは飼育する人の役割です。鶏は言葉がしゃべれませんので、暑がっていないか、調子の悪そうな鶏はいないかと、観察すること。で気づき、問題に対処する。その連続が健康な鶏を育てます。実践のためには、まずは生産者自身が元気になることですが、同時に消費者の方の理解とサポートも必要です。

〒753-0303 山口県山口市仁保下郷317
1972年 卵の生産を開始
1979年 会社設立
1981年 若鶏の無投薬飼育の技術開発
事業内容
若鶏、卵、牛乳、豚肉、牛肉、野菜
加工品の生産と販売

アニマルウェルフェアは、まだ日本ではなじみがありませんが、努力する生産者と家族の健康を大切にされる消費者とを、新たに結び付けてくれる大きな可能性があると私は考えています。

株式会社秋川牧園
代表取締役 秋川 正



松木先生に聞いてみよう！

松木 洋一先生 (日本獣医生命科学大学名誉教授・農業経済学、AWFC代表)



人は、他の生物の“いのちを食べて生きている”ことから逃れることができない、宿命をもっています。

21世紀になってから、とくに動物食についての関心が高まって、ファームアニマルウェルフェア FAW 家畜福祉という新たな用語と価値観が注目されてきています。しかし、他の生物には、動物だけでなく、むしろ動物が生きるために不可欠である穀物、野菜や果物などの植物が存在します。人の健康と福祉は、植物と動物など他の生物のいのちの健康と福祉の実現が不可欠なのです。

FAW 家畜福祉とは、“人も動物も満たされて生きる”という意味であり、人が家畜に生来の行動要求を満たすことによって病原菌への免疫力を増進する、ストレスが少ない生活環境で飼育している状態を指します。

20世紀では、工業製品のように畜産物の生産性、効率性を高度化させるために家畜の自由を制限する「工場的生産

システム」が欧米畜産先進国によって開発されました。日本は半世紀ほど前からこの工場的畜産システムを導入した畜産後進国です。

現在、欧米畜産先進国および畜産物輸出国である開発途上国の多くが、この工場的畜産システムから家畜福祉生産システムへの転換をめざす、いわば“畜産革命”に挑んでいます。工場的畜産システムの典型である採卵鶏のバタリーケージがEUでは2012年から禁止されました。

米国でも牧場、食品企業、外食企業、スーパーマーケットなどの民間企業が動物保護団体との協働で AW 畜産システムとフードサプライチェーンへの転換を進めています。

日本が FAW についての知識と議論を高め、世界の AW 畜産革命の潮流に乗り遅れないように、家畜飼育者、食品企業、流通小売業、外食サービス業、消費者、動物保護団体、研究者が協働していくミッションが問われているのです。

今から19年前の1998年東北大学大学院農学研究科佐藤衆介教授のグループが、当牧場で「搾乳牛の行動による低投入酪農の家畜福祉性評価」というテーマの調査を行いました。当時の私は全く初耳であった「家畜福祉」という言葉に驚かされました。その論文が「日本家畜管理学界」で発表され中洞牧場は家畜福祉性の高い牧場である。と評価をされました。その後、AWFCで監事を務められていた日本獣医生命科学大学名誉教授松木洋一先生も毎年のように来牧いただき、都度ご指導を頂きました。1998年の調査に東北大学の大学院生として参加しておられた現在帯広畜産大学講師の瀬尾哲也先生からも幾多の情報を頂きました。

19年と言う歳月を経た昨年、松木先生のご指導の元にAWFCが設立され、瀬尾先生を中心にアニマルウェルフェア畜産協会が設立されました。密飼いに由来する工業型畜産が主流の中、この二つの団体が設立されたことは日本畜産の革命的事象とも言えるでしょう。中洞牧場はこれからも「限りなく自然のままに」「良質の水・良質の飼料」をモットーとしてさらにブラッシュアップを続けてまいります。



農業生産法人(株)企業農業研究所 中洞牧場

〒027-0505
岩手県下閉伊郡岩泉町上芸字水堀287
050-2018-0110
畜種 乳牛 頭数 100頭 面積 約120ha
飼養管理
日本在来の野シバを主とした自然放牧。
輸入飼料不使用。
製品の種類
ノンホモ低温殺菌牛乳・アイスクリーム・ヨーグルト
無脂肪乳・グラスフェッドバター・ハンバーグ
カレー・グラスフェッドビーフなど